

平成23年度景観教室
実施報告書

宮崎市立田野中学校

主催 宮崎市都市整備部景観課 協力 (社)宮崎県建築士会

はじめに

宮崎市では、まちづくりに関する重点政策として「景観都市づくり」を力にかけており、平成19年に宮崎市景観計画を策定するなど、様々な施策を実施しています。

「景観」とは、海、山、川などの自然環境や建築物、道路など目に映るまちの姿だけではなく、まちの雰囲気や文化的・歴史的な香りなど、私たちがそこから感じ取る印象までも含めた幅広いものです。つまり、私たちが生活している空間や環境そのものであり、その都市の個性や文化水準を表すものといえます。

今回の景観教室の舞台となる宮崎市田野町は、鰐塚山に代表される美しい自然景観や、大根やぐらをはじめとした四季折々の景観資源が数多くあります。それらを生かしながら、文化の香り豊かな快適な生活が営めるように、住民の皆さんが共有できる良好な景観を有する「まち」をつくる必要があります。

美しい景観は自然に生まれるものではなく、市民、事業者、そして行政の日頃からの意識と努力の積み重ねによって作りあげられていくものであり、市民一人ひとりの「景観」に対する関心や意識の向上、そして郷土への愛着の醸成を図ることが必要です。中でも、将来の景観づくりの担い手である中学生の皆さんの景観教育は大変重要なものとなります。

この「景観教室」は、景観に関する学習を授業の中に取り入れた試みとして、平成14年度から各学校と協力しながら実施しているものです。また、平成21年度からは、(社)宮崎県建築士会(宮崎市景観整備機構)の全面協力のもと実施しています。

目次

第1章 景観教室の概要	・・・P 4
第2章 オリエンテーション	・・・P 5
第3章 景観を知る	・・・P 6
第4章 景観を調べる	・・・P 14
第5章 景観を提案する	・・・P 19
第6章 景観教室をふりかえって	・・・P 25

第1章 景観教室の概要

1 実施目的

「景観」は、市民一人ひとりの様々な生活意識や価値観に基づく活動の結果としてつくり出されるものであり、良好な景観の形成を推進するにあたっては、市民や事業者の景観に対する意識を深めることが重要です。

宮崎市では、このような市民の意識を醸成するため、道路や川などに地域の方々と協力して花を植えたり、また、景観のセミナーなどの各種イベントを開催するなど、様々なかたちで情報提供や啓発活動に努めています。

景観教室は、「景観」をテーマにした授業を学校教育の中に取り込むことにより、将来の景観形成の担い手である中学生の景観に対する興味や関心を喚起し、活動を通じて知識の習得を行うとともに、景観を通して自分たちの地域を知り、郷土愛の醸成を図ることを目的としています。

2 実施校

宮崎市立田野中学校（米倉公司校長）

3 実施期間

平成23年5月 ～ 平成24年1月（計10回）

4 協力団体

(社)宮崎県建築士会（宮崎市景観整備機構）

授業の企画立案から実施まで、(社)宮崎県建築士会宮崎支部の景観まちづくりメンバー「KOALA（コアラ：Keikan Organization for Arranging Landscape and Architecture）・宮崎」の皆さんの全面協力のもと実施しました。

5 実施科目

3年社会科選択（担当 塩谷健志教諭） 生徒24名

※田野町の概要

宮崎市田野町は、宮崎市の西部に位置する自然に包まれた緑豊かなまちです。

平成18年1月、旧田野町は宮崎市と合併しました。合併後も、豊かな自然と様々な産業が調和した町として発展しています。

- ・人口：11,358人（平成24年1月1日現在）
- ・面積：10,830km²




第2章 オリエンテーション


1時間目

ーオリエンテーションー

- ①塩谷先生から授業内容の説明
- ②建築士会松竹さんより、あいさつ
「田野の魅力がたくさん見つけて、
田野を好きになってください！」
- ③景観課より、景観教室について説明
 - ・景観教室について
 - ・景観教室の流れについて
- ④自己紹介
 - ・生徒と講師の皆さんが、それぞれ自己紹介を行いました。
 - ・自己紹介と田野の好きな場所や景観について考え、
発表しました。



「景観」は、
このように書
きます。



田野といえば、や
っぱりあれだよ
ね・・・



なるほど！
そこはいいよ
ネ。

講師の皆さんも発表しました



みなさんが好きだと思う「田野」

- ・自分の家の近く
- ・きれいな空気
- ・鰐塚山
- ・緑や自然が多いところ
- ・雨太鼓
- ・大根やぐら
- ・山の中の道路をドライブすること・・・

第3章 景観を知る

2時間目①

—景観とは何か?—

景観づくりの基本となる法律や条例、宮崎市の取り組みなどについて、景観課より説明を行いました。

■「景観」とは？

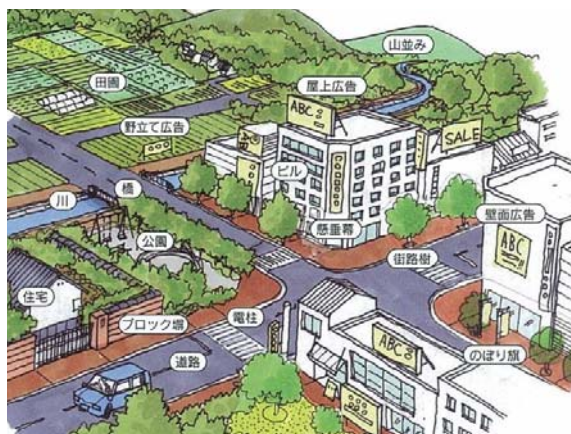
- ①海、山、川などの自然や、建物、道路など、私たちが目にするまちの姿
- ②まちの雰囲気や文化的・歴史的ななかりなどの印象



Check 私たちが生活している空間や環境そのものであり、その都市の個性や文化水準を表すもの。

■景観を構成するもの

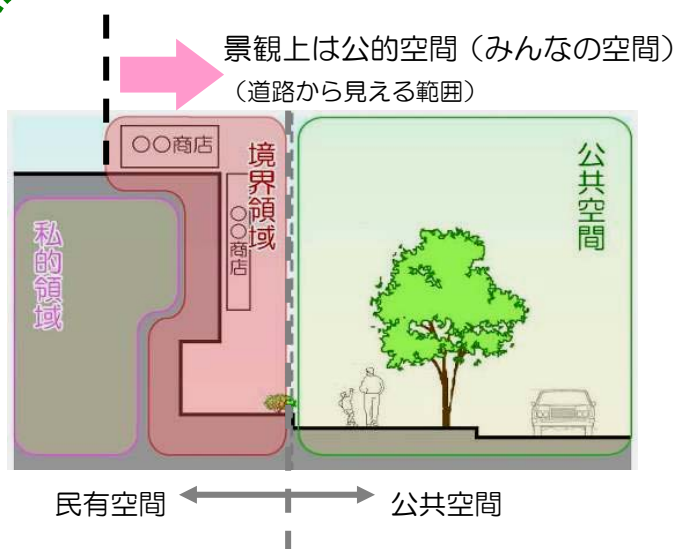
道路や建物をはじめ、街路樹、橋、広告物、公園、背景となる山並みなど、わたしたちがまちを眺める時に目に入る様々なものが景観をつくっています。



Check 景観を構成しているもの

■景観はどこまでが範囲なのか？

景観形成の観点から、都市の空間を考えてみたとき、重要なポイントとして次の3つの空間構成があります。



①公共空間

道路や公園などの公共の空間
＝公的財産

②私有空間 (私的領域+境界領域)

個人や会社など、民間が所有する
土地建物など
＝私的財産

③境界領域

私有空間に属するが、公共の空間
に面していることから、半公共的な
空間として位置づけられます。

Check 景観形成からの都市空間の概念図

■なぜ、景観を考えることが重要になってきたのか？

これまでは・・・

①経済性、機能が最優先

- ・ 技術的な面にしか配慮されなかったこと。
 - ・ きまりの範囲内であれば、建築が自由であったこと。
 - ・ 歴史的価値を考えずに開発が進行したこと。
- など、経済成長を重視したことで、自然破壊や歴史的なまちなみの消滅など様々な問題が現れました。



広告物や電線があふれる景観

②法制度の未整備

建築物などについて、景観の観点から規制・誘導を行う明確なルール（法律）が存在しませんでした。

Check まちづくりに関する法律（景観についてはあまり考慮されていない）

- ・ 建築基準法：建物の敷地や構造などに関する最低限の基準を定め、国民の生命や財産を保護する法律
- ・ 都市計画法：土地の使い方、道路や鉄道の整備方法を定め、都市の健全な発展と秩序ある整備を目的とした法律

③デザイン基準づくりの遅れ

「質」で判断されるデザインの明確な基準づくりが難しく、市民や事業者、行政になじみにくかった（美の基準づくり）。



Check ゆとりある、豊かな生活環境の追求

全国一律の法制度のもと、どこに行っても同じようなまちなみが出現するなかで、歴史的なまち並みや自然環境に対する関心が高まり、身近な生活環境をより豊かなものにすることが求められるようになってきました。

■景観法の制定（平成 16 年 6 月）

社会情勢の変化から景観に対する意識が全国的に高まる中、これまでのまちづくりの考え方を反省し、「美しい景観は国民共有の財産」という理念のもと、各地の景観の取り組みを支援するために、景観に関する総合的な法律を制定しました。

- ・ 景観づくりのための計画（景観計画の策定）
- ・ 景観計画に、景観のルールを位置づける（罰則あり）

■先駆的な都市景観形成の例（横浜市 1965 年頃～）

「まちのデザインを継続的にコントロールする」というイメージのもと、都市空間の質的向上をめざして様々なプロジェクトを展開しています。



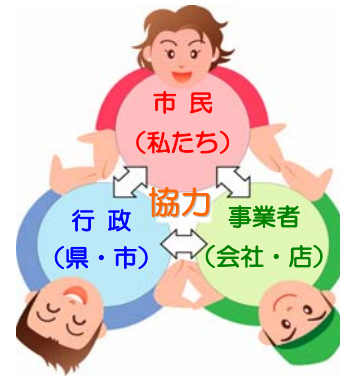
みなとみらい21地区



元町商店街

■景観づくりの基本的な姿勢

市民・事業者・行政は、それぞれに求められる役割を果たしながら協力して景観を形成していくことが重要です。



■宮崎市の景観行政

本市では、平成2年に「宮崎市都市景観条例」を制定し、様々な景観施策に取り組んできました。その後、平成16年に景観法の制定に伴い、景観法に基づく「宮崎市景観計画」を平成19年10月に策定し、具体的な景観施策に取り組んでいます。

①景観計画の区域

景観計画は市内全域を対象区域としています。その中でも、景観上特に重要な地区を「重点景観形成地区」に指定しています。



高千穂通り地区



一ツ葉リゾート地区



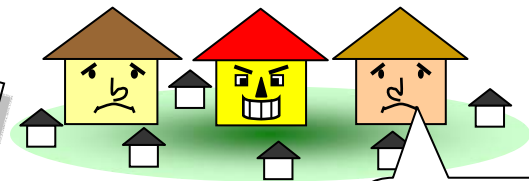
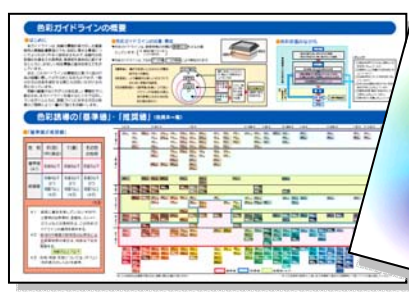
日南海岸地区



大淀川地区

②景観形成の方針・ルール

「宮崎市景観計画」において、“豊かなひろがりのある、花のにあうまち・みやざき”を景観形成のための基本理念とし、この実現に向けた目標や方針を示しています。また、建物の色彩基準などの基準（ルール）を定め、調和のとれた景観形成を推進しています。

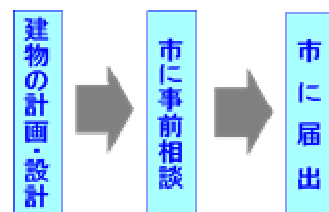


建築物等色彩ガイドライン

まわりの建物と調和した色彩にしてね。

③建物などの事前届出制度

建物の新築や広告物の設置などを行う場合には、景観法や景観条例に基づき、市へ事前に届出を行う必要があります。事前に届け出てもらうことで、景観上どのように配慮したか、景観のルールに適合しているか、その内容についてあらかじめ確認し、必要であればアドバイスをを行います。



④市民意識の啓発

行政が、建物のデザインや色彩をコントロールするにしても、建築の自由、表現の自由など問題があり、限界があります。そこで、市民が自主的に「景観をよくしていこう！」という意識をもっていただくため、意識を高めること（景観啓発）が重要になっています。

- ・景観重要建造物・景観重要樹木の指定（写真上）
- ・専門家による講演会等の開催
- ・違反広告物の市内一斉除却
- ・アイビー大作戦
- ・市民による花の植栽ボランティア（写真下）
- ・景観に関するワークショップの開催
- ・宮崎市風景絵画コンクール（下記にて説明）



宮崎市風景絵画コンクール

【目的】

将来を担う子どもたちに、市内の風景を描くことで、宮崎への愛着や景観への関心を高めてもらおう

【募集内容】

夏休み期間中に市内の小中学校に通学する児童、生徒さんを対象に、「えがこう 宮崎市のまち・風景」をテーマに絵画を募集

【部門】 小学生3部門、中学生1部門

【平成23年度募集総数】 1017点

【平成23年度受賞・入選数】 85点



中学生部門 金賞



中学生部門 銀賞



中学生部門 銅賞



中学生部門 審査員特別賞

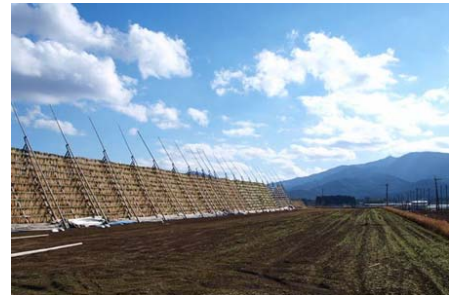


■宮崎市、そして田野町の景観

市内や田野町では多くの美しい景観が見られます。

宮崎市内の景観↓

田野町の景観→



①南バイパスのヤシ並木 ②県庁楠並木 ③安藤家武家門 ④黒北発電所

上：鰐塚山と大根やぐら 下：梅谷橋

2時間目②

—景観をつくるもの（世界の景観を紹介）—

建築士会越山さんより、世界各地の様々な景観を紹介していただきました。



世界にはたくさんの美しい景観があります。

Check 越山さんの話 ～この授業のねらい～

世界の美しい景観を見てもらい、
 純粹に「きれいだな」「なんかいいな」と感受性に訴えたいと思ひ、何か感じてもらえればという授業です。
 歴史の流れとともに変化する建築物の意味
 長い間、時の流れに取り残された景観
 景観と都市計画
 などの専門的なことも織り交ぜましたが
 今後、まち・建物・自然を見るときに、頭の片隅にでも残っていれば、景観について考える良いきっかけとなることを目指しました。

■紹介していただいた主な世界の景観事例

①Paris（パリ；フランス）～時代により変わる景観の捉え方～

1889年、万博のために出来たこの施設（エッフェル塔）は、出来た当初は、石造りのパリのまちなみに突然現れた鉄の塊でした。また、高さが300mを越すものなので、パリのどこからでも見えるものでした。

「パリの景観に合わない」として、パリの人たちからは受け入れられず、万博終了後に壊されようとしていた時、世界情勢が怪しくなり、軍事用の電波を送信するための施設として残るようになりました。しかし、今では、世界有数の観光地となり、パリの景観を構成する最も重要な施設となりました。



②Toledo (トレド; スペイン) ～時代の流れの中で変わることのない景観～

ベージュの土壁に、素焼きの瓦がのった建物が続いています。1600年ごろに活躍した画家、エル・グレコが、このまちを多く描き残していますが、その絵は現在の状況とほとんど変化は見られません。



1600年(絵)と現在のトレドの状況

交通機関も発達していない頃に完成されたこのまちは、地元でとれた材料のみで建物がつくられています。その結果、統一された景観になっています。

③Venezia (ベネチア; イタリア) ～独特な景観～

このまちは、150の運河、177の島、400の橋から出来ており、車は一切走っておらず、交通手段は船のみで、独特の景観をつくっています。その運河沿いには、数多くの貿易や金融で財を成した人々の邸宅が建ち並んでいます。ある一時代に栄えたまちの魅力が、そのまま現存している場所です。



④ソウル(韓国)～清溪川(チョンゲチョン)の復元工事～

ソウル市内を流れるこの川は、韓国の経済成長に伴う水質悪化の問題などから暗渠化(あんきょか)し、1971年にこの上に高架道路をつくりました。

その後、イ・ミョンバク大統領がソウル市長であった2003年から、市民の清溪川復元の世論が高まったことを受け、高架道路の撤去と河川の復元工事を行いました。水質浄化対策や親水施設の整備、そして高架道路が無くなったことによる交通対策を実施した結果、現在では市民の憩いの場となっています。

越山さんに紹介していただいた後、授業で気づいたことを紙に書いて発表してもらいました。HP

みなさんが興味を持った景観、気づいたこと

- ・ベネチアの水路の景観やスイスの広がりのある景観がよかった
- ・石が使われたヨーロッパの景観に興味を持った
- ・自分たちの身近にも素晴らしい景観があることに気づいた

どんなことに気づいたかな?



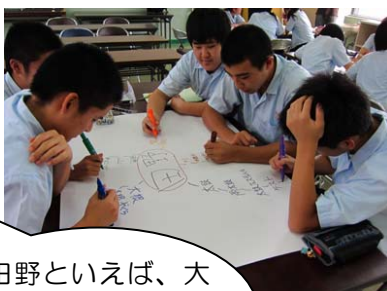
3 時間目

— 田野のイメージを探る —

田野について、「マインドマップ」という方法で連想し、何でも自由に書きました。各班140～240個ものキーワードを出してもらいました。最後に、連想した言葉の中から、「これぞ田野！」という言葉各班ごとに2個選びました。



まず、「田野」と大きく書きます



田野といえば、大根→大根やぐら→漬け物→・・・

田野で思いつくことを、どんどん書いてね！



1 班



2 班



3 班



4 班

Check マインドマップ（連想図）とは？

一つのテーマについて、記憶を引き出し、新たに発想するための方法です。

1. 連想の出発点としてテーマを決め、それをイメージ、絵などで表現します。
2. 連想の方向性となるキーワードを出し、それから連想することを次々とつなげます。
3. 最後に、連想した言葉の中から、テーマにふさわしい言葉を1、2個選びます。

4時間目

—特別講義「景観と生活+α」—



建築士会松竹さんより、「景観と生活+α」というテーマで、特別講義が行われました。

松竹さんのこれまでの体験を踏まえて、景観に限らず、今後の人生で大切なことなど、様々な話をいただきました。

Check 話のポイント

- ・「景」・・・姿・形（物体）
- ・「観」・・・じっくり見ること、見ることによって得られるもの（心理）
- ・景観を良くするためには、法律などの決まりに加えて、一人ひとりのマナーや意識が特に重要である。
- ・東日本大震災で平穏無事な生活が一変した。「平和」がいかに大切か認識させられた。
- ・「平和」とは、人の心を理解する心を持つこと。みんなの心の中にある。
- ・「幸せ」とは、近くにいる人（親・妻・子供）が幸せな姿を見ること。つまり、自分のためではなく、他の人を幸せにすることである。
- ・景観づくりも、田野に住む人たちを幸せにすること。一人ひとりの意識が重要である。

第4章 景観を調べる

5時間目

—まち歩き・調査—

田野中周辺の市街地を中心に、2コースに分かれてまち歩きを行いました。生徒の皆さんに、田野のまちなみを形成しているだろうと思われる要素や、「いいなあ」と思う景観、「これはちょっとどうかな」と思う景観を、カメラに収めてもらいました。



川添さんによる事前説明

- ※ まち歩きの様子を新聞で紹介いただきました
(H23.11.1 宮崎日日新聞)



※宮崎日日新聞社提供

★まち歩きのコース



○グリーンゾーン（市街地西側、住宅地周辺）：1班・2班

○ブルーゾーン（市街地東側、商店街・田野駅周辺）：3班・4班

★まち歩きの様子



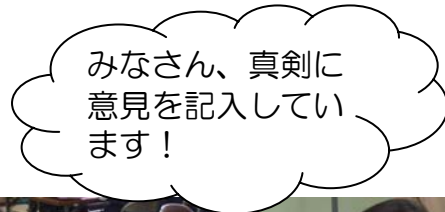
6時間目

—まち歩きのとまとめ・発表—

まち歩きを振り返り、班ごとに撮ってきた写真を、模造紙上で良い景観と問題のある景観に分類してまとめました。最後に班ごとに発表してもらいました。

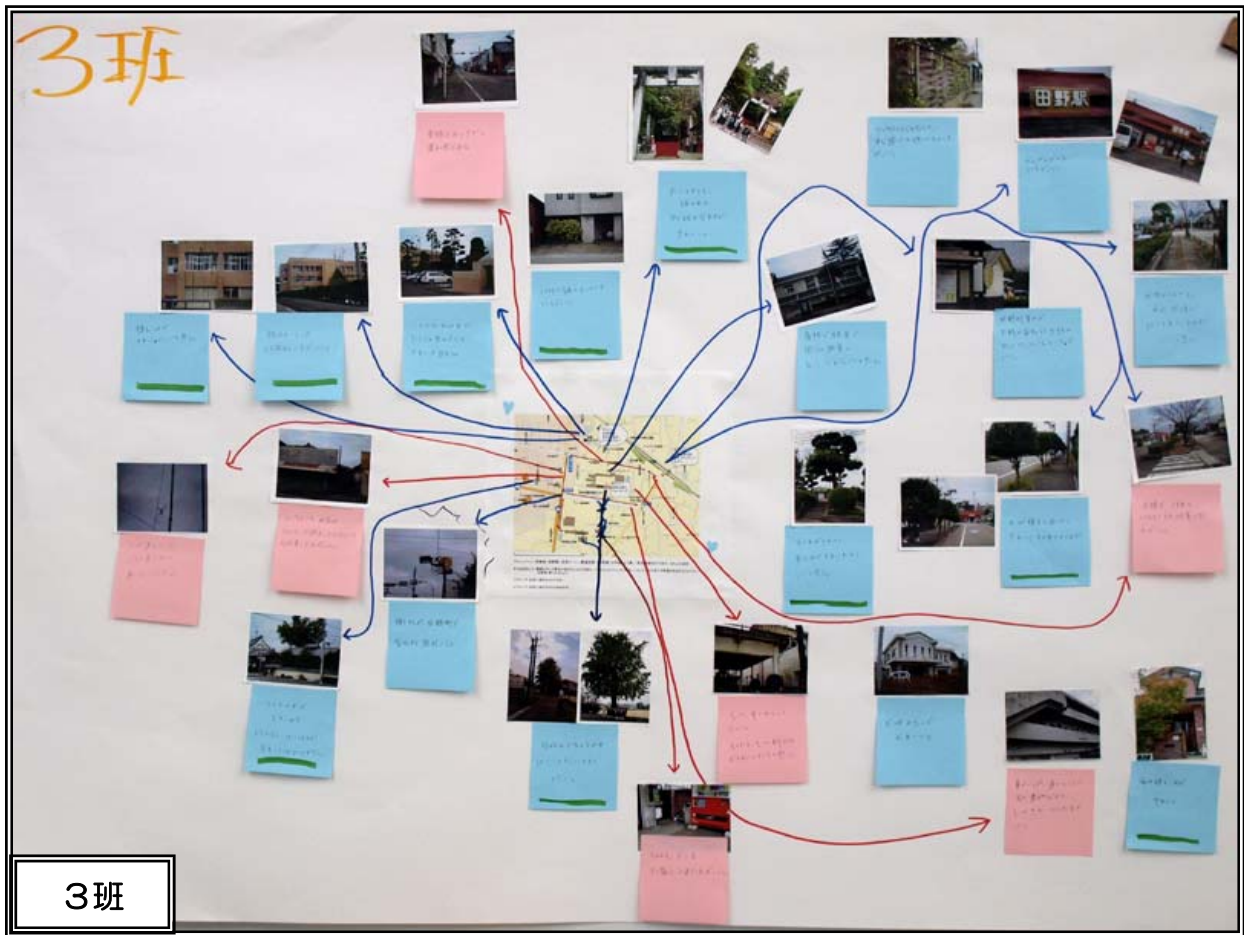


福添さんによる事前説明



★発表の様子と各班の調査成果





第5章 景観を提案する

7時間目

—特別講義「震災と景観」—

提案制作の前に、建築士会川添さんより、3月11日の東日本大震災を踏まえて、今後の景観づくりについての講義を行っていただきました。



川添さんが撮影された被災地

Check 話のポイント

- ・今回の震災では情報が混乱した。1995年の阪神大震災の時は「木造住宅は危険」という情報が飛び交った。だが、今回、木造でも被害が少ない家屋はたくさんあった。
- ・今回の震災では、地震・津波・原子力の3つによる被害があった。特に、景観に影響を与えたのが津波である。
- ・景観には、「遠景」・「中景」・「近景」の3つがある。
- ・今回の津波では、山並みなどの遠景は失われなかった。
- ・一方、人が関与する中景・近景は、今回大きく失われた。中景・近景の良し悪しで故郷への愛着も変わってくる。
- ・花の植栽やゴミ拾いなど、ひとり一人心がけて、心に残る景観をつくっていくことが重要である。

8時間目

—提案のテーマを決める—

いよいよ、「田野の未来の景観について考える」というテーマで提案制作を行います。制作にあたり、まず各班でどのような「まち」にしたらよいか話し合いました。

「〇〇（田野の具体的な場所）」が、「△△に（どのように）」になったらいいな～、ということを書き出して意見を集約し、提案テーマを決めていきました。



★各班のテーマ

- 1班 「ライトプロジェクト」(場所：国道 269 号バイパス沿い)
- 2班 「足元から見直す景観」(場所：中心商店街周辺)
- 3班 「日本一 だいこんの駅」(場所：田野駅)
- 4班 「楽しく歩こう 田野の商店街」(場所：中心商店街周辺)

9・10 時間目

—提案制作・発表—

いよいよ提案の制作です。建築士会の方々のアドバイスをいただきながら、田野の将来像についての提案パネルを制作し、発表しました。



★発表の様子



■4班 「楽しく歩こう田野の商店街」 担当：甲斐さん



(提案の特徴)

- ・ 景観をどのように変えれば、商店街を楽しく歩けるのか考えた。
- ・ ニューヨークのラドバーンのように歩行者専用として、周囲の道路に車を誘導する。
- ・ 雨に濡れないようにアーケード、無電柱化、道路の緑化をする。

■全体講評（建築士会川添さんから）

今回、まちづくりの提案をしていただきました。制作時間が足りなくて大変だったと思いますが、各班ともすばらしい提案が出来上がったと思います。

実際のまちづくりの時は、周囲の景観との調和はもちろん、費用対効果や高齢化社会のことも考えなくてはなりません。さらに、近年、施策を決める際には、市民参加のプロセスが必要になってきています。

今後も田野に愛着を持ち、まちづくりについて考えていただければと思います。

皆さん、発表
おつかれさ
までした！



第6章 景観教室をふりかえって



生徒の皆さんの感想

皆さんに、景観教室を振り返って感想を書いていただきました。全文を掲載することはできませんが、その一部をご紹介します。

- 😊 景観教室を受けて、田野の良い所・悪い所を改めて知ることができました。また、景観とは何なのか、どうしていくべきか知ることができました。そして、世界の良い景観を見て、自分達が居心地よく暮らしていくためにも、景観は大切だということもわかりました。景観を良くしていくためにも、ゴミを捨てないなど最低限のことはこれからも行っていきたいです。そして田野や今後訪れる場所の景観を見て自分なりに考えて行動していきたいと思いました。
- 😊 景観を学んで、自分たちの街をこうしたい、あーやってみたいなど改めて町について真剣に見ることができ、話し合っ自分達で「ゴミ箱を設置しよう」という題でアイデアを出し、先生達からアドバイスをいただきながら発表することが出来ました。今の田野らしさは、鰐塚山と田畑にある大根やぐらや森や緑だと思います。その田野らしさをくずすことなく、もっと田野が発展するように大人になっても考えたいと思いました。
- 😊 一番印象に残っていることは実際に田野を歩いたことです。私は田野に派手な建物は無く景観がきれいだと思っていましたが、ところどころに景観に合わない建物や電波塔があり意外でした。逆に景観に良い駐車場や家がありいいなあと思いました。景観は雰囲気とあまり関係ないだろうと思っていました、しかし景観の大切さがわかり、自分も景観に合ったものをつくって配慮しなければならないと思いました。これからもよい景観づくりができるよう頑張っていきたいです。
- 😊 僕は景観教室でわかったことは、田野にも景観が良い所と悪い所があるということです。悪い所はごみが捨ててあったり、まわりの風景にあわない色のものがあったりした所です。良い所は、田野らしく花が植えてあったりしていた所です。この学習をして色々なことがわかったような気がしました。
- 😊 私たちは初めて田野の景観について学び、歩いて色々な所を見ました。良い所・悪い所

がともにあり、田野は自然がとても多く豊かな町でした。しかし、ゴミが落ちていたり田野にもマイナス面が多かったので、これからどのようにして田野を変えていくか班で発表しました。田野には大根やぐらなど伝統的なものがたくさんあるので、このようなものを残していき、マイナス面をなくしていけば、人々がよりよく暮らせる町になると思いました。

- ☹️ 僕は今まで何も考えずにこの町に住んでいました。しかし景観教室を通して改めて田野という町に目を向けてよく見て考えることができました。授業で田野の町を歩いてまわりました。良くない景観を見たとき、初めて景観というものがどのようなものかわかりました。教室で学んだことをこれからの機会を活かしていきたいです。
- ☹️ 田野にも良い景観・悪い景観がたくさんあるので、日本全体でも良い景観・悪い景観がとても多いだろうと思いました。ゴミに関しても景観に関係があるので、ゴミはポイ捨てをしないでゴミ箱に入れる、または家に持ち帰るなど、身の周りの景観を大切に、田野町を良い景観の町と言われるような町になってほしいと思いました。そして、田野の良い景観を将来言いたいので、田野の良い景観を見つけたいと思いました。
- ☹️ 景観教室を受けて身の周りには自分の知らないことがたくさんあることを知りました。道路など、普段なにげなく見ている風景も注意して見てみれば、たくさんの景観を見ることができます。その風景をどのように工夫すれば良くなるとか、実際に歩いてみて、考えたり調べたりできてとても良かったです。また、他の班の発表を聞いて、自分の気づかなかったこと以外にも気づくことができ、とても勉強になりました。景観教室はとても良かったです。
- ☹️ 普段歩いている田野の町や駅周辺について調べたら、住み慣れている田野でも知らないことがたくさんあることがわかりました。町づくりはみんなですべてその町らしくなるものだと思うので、私も田野の町づくりに日頃から参加していきたいと思いました。みんなですること、自分一人ですること、小さなことでも大きな力になれるということを知ることができました。これからは、みんなの為、田野の為、そして自分自身の為にも、町も自分の心も町づくりに協力して田野らしい町をつくってきたいです。
- ☹️ 景観教室では、外国や色々なまちの景観を見て、景観のことがよくわかりました、そして田野の景観を見て周り、いつも見る景色だけど、注意してみると、自分達も気づかなかった町の良い所や悪い所が見えました。そのことを班でまとめました。改善点などをかんがえながらまとめることができました。他の班の考えを聞くことができ、改めて田野についてよく知ることができました。とても勉強になりました。
- ☹️ 景観は世界の国々によって違い、ヨーロッパは石やレンガ造りの歴史がある町並み、アジアは木の家など地域の特徴があることを知りました。そうすることで国々の色々な特色がでて、景観のバランスがとれるんだなということを知りました。しかし近年、地域に合わない色や形をした建物で景観のバランスを崩していることを知りました。まち歩きの結果、僕たちはゴミ箱の設置について考えました。そのことを通して、自分自身を見直し、ポイ捨てをせず、積極的にボランティアに参加できたらと思いました。
- ☹️ 初めて景観について学んだので難しい面もあったけど、少しは景観というものが分かるようになりました。中でも、田野をまわって長所や短所を調べ、どのように改善すべきか発表を行ったことが、一番心に残っています。自分達は田野に電灯を増やし田野のまちを明るくしたいという気持ちから「light プロジェクト」の発表をしました。景観教室

で真剣に田野の町について考えることができ良かったです。いい経験でした。

- 😊 私の景観のイメージは「景色」みたいなものだと思っていたけど、見た目だけではなく環境や人の生活を関わりがあって難しいと思いました。いつも私たちが見ている町の景観は見慣れていて気づかないことが多かったけど、先生達が良いところや改善した方がよいところなどをアドバイスしていただきました。最後のまとめではそのアドバイスをもとにまとめられたと思います。景観は自然だけではなく、町の電線や植物の手入れなども関係していることがわかり、勉強になりました。
- 😊 景観学習をして最初は「景観」という言葉がわからなかったけど、学習していくうちに景観について色々考えることができました。私は建物の色とか何も考えずに問題ないと思っていたけど、ちゃんと周りのことを考え、周りの景色に合った色にしないといけないということを初めて知りました。将来自分の家を建てる時には、しっかり考えていきたいと思いました。将来の田野駅が、私達が今回考えた「だいこんの駅」になったらいいなーと思いました。
- 😊 景観教室を通して学んだことはいっぱいあります。自分たちの周りにある景観では、大根を干している大根やぐらの景観を見て、田野の気温を利用してその姿が景観とあっていました。田野の素晴らしい景観を調べる学習もしました。実際に調べてみると、ゴミの問題や自然に関係のある川、森の問題点がでてきました。この問題点を解決していくために、私たちが普段からゴミを捨てないことだと思いました。この学習で学んだことを生かして、これからの生活をすごしていきたいと思いました。
- 😊 私は普段何気なくこの町で暮らしています。そして僕はこの町の良い所や悪い所を意識することなく過ごしてきました。でも景観教室のおかげで意識できるようになりました。田野の景観を見に行き、田野をどう改善していくかについて考えたことは、とても貴重な経験になりました。僕たちが考えたことが町に活かせるかどうかは分かりませんが、大人になったときは、今よりももっと過ごしやすい町にしていきたいと思いました。これからも学習を生かしていけるように頑張っていきたいです。
- 😊 私たちの班では、田野の商店街がどうあってほしいかを話し合いました。話し合いでは、今の商店街が殺風景で木や花が少なく、電柱ばかりがある町なみなので、電柱を無くしたり、道路を広くしたり、歩行者用道路をつくったり、木や花を植えて、商店街を明るくにぎわせたいなどの意見が上がりました。それをまとめて発表していく中で、私は、もっと景観について調べたいと思いました。
- 😊 田野の景観は個性的で自然豊かです。良い所はやはり自然です。自然の緑がたくさんあり、野菜も新鮮でとてもおいしいです。しかし商店街は少し寂しい部分があります。これを改善するためにも、店の看板を新しくしたり歩行者が通る道をつくったりするのいいなと思いました。また、緑が商店街には少ないので、少しでも緑を増やしたりするのもいいと思いました。街全体をもっと自然豊かでにぎやかな町にしていって少しでも田野らしさが残るのではと思いました。他の町や市内でも、雰囲気を変えていけばより素晴らしい景観ができると思いました。これからも景観に詳しくなろうと思います。
- 😊 私はこの景観教室で学んだことが2つあります。1つ目は景観とは何かがあったことです。景観について興味を持つことができました。2つ目は田野の景観です。今まで自分の町の景観を考えたことはありませんでした。でも、田野町を歩きまわってみると、見慣れた町の中に良い所や悪いところがあることが分かりました。昔からある建物や田

野らしい大根やぐらなどの良い景観やゴミ箱の無いところに捨てているゴミなどの悪い景観です。これからは色々な景観に目を向けて生活していきたいです。

- 😊 景観の授業を受けて、たくさんのことを学ぶことができました。例えば、景観の仕事によって、町にふさわしい町づくりが出来ていることなど。他にもたくさんを学び、前よりもだいふ町の風景を見るようになりました。この授業で学んだことを生かせるように、自分ももっと勉強したいです。仕事の時間をけずってまで、景観について教えてくれたことを心から感謝しています。
- 😊 私は今まで景観のことについて考えたりしたことが無かったので、最初はあまりわからなくて意見が言えなかったけど、どんどん景観を知るにつれて自分の意見を言えるようになったと思います。町を歩いて、悪いところや良いところを探ることが楽しかったです。田野町内だけでも良くない景観が目立つので、他のグループの発表を聞いて自分が考えていないことがあり、勉強になりました。景観教室を通して考えたことや学んだことを生かして、これからも市内の景観さがしにも挑戦してみたいなと思いました。



川添さんのお言葉

最後に、授業をしていただいた、建築士会の川添さんの感想を掲載します。

今年度の田野中学校での景観教室では、これまでの基本的な基礎学習→まち歩き→街づくりの提案という流れに、3月11日に起きた東日本大震災についても触れてほしいとの学校側からの要望に応じて、プログラムを構成しました。全10回のプログラムのなかで、後半のまちづくりの提案を行う前に、被災地の状況を子どもたちに伝えることにしました。

被災地の状況というのは、いろんなメディアや実際にボランティアに入った知人からも話を聞いていたので、なんとなくの状況はわかっているつもりでしたが、実際にその地に入ってみると、とても言葉にできない光景でした。リアス式の三陸海岸を北上しながら、景観ということについてあらためて考えてみました。波に奪われて何も無い景色は、はじめて訪れた僕にとって、このまちがどのような雰囲気だったのかは想像することもできません。

残っているのは遠くに見える山や川や海と言った自然の景観だけです。当たり前の話ですが人間がつくっている景観は変わっていくものです。自然災害でなくても…。いろいろな思いを胸に宮崎にもどり、子どもたちのまえで話をしました。ただ、未だに震災のことはうまく自分自身の中で整理がついていないので、どれだけのことが伝わったかは自信がありません。

建築をつくることは景観をつくっていくこと、改めてその思いを強く感じた、景観教室でした。

最後に、東日本大震災で亡くなられた方の冥福を祈り、被災地がより良い復興をされることを願います。



平成23年度 景観教室実施報告書（田野中学校編）

平成24年3月発行 宮崎市都市整備部景観課

〒880-8505 宮崎市橘通西一丁目1番1号

TEL 0985-21-1817 FAX 0985-21-1816

[ホームページ](#)

[みやざきの景観](#)

[検索](#)